

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等第1～3学年・
特別活動

時数等

2時間

目標・人権教育のねらい

- ・ アイヌ語・アイヌ文化を事例として、文化の多様性について理解することができる。

実施した内容

- ・ アイヌ語・アイヌ文化発信者として活躍している講師を招聘し、「自分らしく生きることを楽しもう～アイヌ語・アイヌ文化を通して～」というテーマで講演会を実施した。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ アイヌについてのクイズを出題したりアイヌ語を用いたゲームを行ったりするなど、参加体験型の活動を取り入れた。
- ・ 講演会后、生徒と交流する時間を設定し、アイヌに関心をもつ生徒が直接講師と話ができるようにした。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・ 1学年の地理歴史科（地理総合）でアイヌの人々について学ぶ際に、本講演会の内容を想起しながら学習に取り組んだ。

事業成果

- ・ 知識的側面：「アイヌの人々の文化や伝統について理解している。」
事業開始時：73.0%⇒事業終了後：97.4%
- ・ 知識的側面：「アイヌの人々に関する歴史や現状について理解している。」
事業開始時：67.6%⇒事業終了後：100.0%
- ・ 価値・態度的側面：「様々な地域の文化や伝統を尊重しようとしている。」
事業開始時：91.9%⇒事業終了後：94.9%
- ・ 技能的側面：「自分と異なる価値観をもつ人に対しても関わることができる。」
事業開始時：86.5%⇒事業終了後：94.9%

<事業終了後の生徒の言葉>

- アイヌ語のゲームなどをやってみるとアイヌ語が少し分かるようになって嬉しかったです。これからも世界の文化を知ったりして世界中の人たちがお互いに認め合う世界にもっとなってほしいと思いました。
- アイヌ文化を大切にすることはもちろん、世界中で守って受け継いでいる文化を尊重していきたいと思いました。その中でもアイヌは自分たちにとって近い文化であり、みんなで守っていきたいと思いました。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

第1学年・地理総合

時数等

4時間

目標・人権教育のねらい

- ・人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことについて理解する。

実施した内容

- ・生徒がアイヌの人たちの食生活や衣服、北海道の地名の由来等について調べ、発表会を行った。発表した内容についてアイヌ語・アイヌ文化発信者として活躍している講師からの助言を受け、学びをさらに深めた。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・生徒が主体的に調べ学習を行うことができるよう、調べるテーマについて自分たちで決めるようにした。
- ・スライドを使用した発表に慣れていない生徒も見られたため、教員がスライドの手本を示し、分かりやすく発表するための方法について指導した。

(講師との連携)

- ・授業の流れについて講師との打合せを経て決めた。
- ・生徒が作成したスライドを予め講師に共有することで、発表会当日の学びがより深いものとなるよう工夫した。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 特別活動の一環として取り組んだ「アイヌ文化参加体験型学習会」の内容と関連付けながら学習を進めた。

事業成果

- ・ 知識的側面：「アイヌの人々の文化や伝統について理解している。」
事業開始時：66.7%⇒事業終了後：100.0%
- ・ 知識的側面：「アイヌの人々に関する歴史や現状について理解している。」
事業開始時：41.7%⇒事業終了後：90.9%
- ・ 価値・態度的側面：「様々な地域の文化や伝統を尊重しようとしている。」
事業開始時：83.3%⇒事業終了後：100.0%
- ・ 価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがある。」
事業開始時：66.7%⇒事業終了後：72.7%
- ・ 技能的側面：「自分と異なる価値観をもつ人に対しても関わることができる。」
事業開始時：75.0%⇒事業終了後：90.0%
- ・ 技能的側面：「地域や社会をよくするために考えて行動することができる。」
事業開始時：50.0%⇒事業終了後：72.7%
- ・ 生徒を対象としたアンケートでは、「アイヌの衣服は熊の皮を使ったりして寒いところでも工夫して寒くならないようにしているのがすごいと思った」という意見が見られた。生活文化と地理的環境の関係に着目していることから、本取組のねらいを達成することができたと考える。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

広島県

学校名

広島県立向原高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等第1～3学年・
特別活動

時数等

3時間

目標・人権教育のねらい

- ・多様な文化や価値観について触れ、それらを背景とする人々との交流を深めることを通して、異なる文化や価値観、言語等について知るとともに、多様性を認めて尊重し、良好な人間関係を築こうとすることができる。

実施した内容

- ・国際交流の一環として、地域に在住している外国籍の方と一緒に調理実習を行った。

工夫した点

(指導上の工夫)

- ・ブラジル・中国・ハワイ出身の方々と、英語で交流しながら調理し、一緒に食べるようにすることで、文化や価値観の違いについても理解を深められるよう工夫した。

(関係機関との連携)

- ・調理実習に向けて、市の国際交流協会の方を講師として招聘し、外国人の実態や多文化共生の在り方について理解を深める学習を行った。

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

- ・ 地理歴史科における多文化共生の学習と関連付けて取組を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：「多様な考え方をもつ人々と暮らしていることを知っている。」
事業開始時：86.5% ⇒ 事業終了後：97.7%
- ・ 価値・態度的側面：「様々な人々が共生できる社会の実現に向けて、何が必要か考えている。」
事業開始時：73.0% ⇒ 事業終了後：95.5%
- ・ 技能的側面：「自分と異なる考え方を肯定的に受け止めることができる。」
事業開始時：81.1% ⇒ 事業終了後：97.7%
- ・ 技能的側面：「自分と異なる考え方や価値観を持つ人に対しても関わることができる。」
事業開始時：86.5% ⇒ 事業終了後：97.7%
- ・ 技能的側面：「どんな人に対しても、相手の立場に立って物事を考え、行動している。」
事業開始時：83.8% ⇒ 事業終了後：100.0%